

# 第二回 変数のスコープと再帰

---

- 実験年月日 2018/05/28
- 提出年月日 2018/05/28
- 班番号 6
- 報告者 3年19番6班 末田 貴一
- 共同実験者
  - 7番 川上 求
  - 42番 山崎 敦史
  - 47番 ロンサン

## 問題2.1

---

### ソースコード

サンプルのエラーが出るコード

```
x=2
a=5
def f(x):
    x=x+a
    y=x+y
    return y

y=a
z=f(4)
print('x=',x)
print('y=',y)
print('z=',z)
```

修正後のコード

```
x=2
a=5

def f(x):
    x=x+a
    b=x+y
    return b

y=a
z=f(4)

print('x=',x)
print('y=',y)
print('z=',z)
```

## 実行結果

### 修正前の実行結果

```
Traceback (most recent call last):
  File "2_1.py", line 9, in <module>
    z=f(4)
  File "2_1.py", line 5, in f
    y=x+y
UnboundLocalError: local variable 'y' referenced before assignment
```

### 修正後の実行結果

```
x= 2
y= 5
z= 14
```

## なぜエラーが起きたのか、どのように修正したのか

修正前の関数f内にて使用されているyはローカル変数として使っているつもりサンプルコードでした。

しかしグローバル変数としてyは使っているので別名のbというローカル変数を用意することで簡単にエラーを解消できる。

## 問題 2.2

---

### ソースコードと実行結果

#### 図 2.4

```
def f():  
    print(x)  
    x=1  
x=100  
f()  
print(x)
```

## 実行結果

```
Traceback (most recent call last):  
  File "2_2.py", line 5, in <module>  
    f()  
  File "2_2.py", line 2, in f  
    print(x)  
UnboundLocalError: local variable 'x' referenced before assignment
```

先程と同様の理由でエラーが出た。

## 図 2.5

```
def f():  
    global x  
    print(x)  
    x=1  
x=100  
f()  
print(x)
```

## 実行結果

```
100  
1
```

fという関数の中で用いる変数xをglobalというキーワードをつけることでグローバル変数として認識させた。

なので最初は100と表示され、つぎは関数内で書き換えられた1と表示された。

## 問題 2.3

---

### ソースコード

```
def factorial_rec(n):  
    #nが1以上のint型と家庭してnの階乗を返す  
    if n==1:  
        return 1  
    else:  
        return n * factorial_rec(n-1)  
  
for i in range(10):  
    key_input=input("int型のn(1<=n<=10)を指定して下さい : ")  
    print(factorial_rec(int(key_input)))
```

## 実行結果

```
>python 2_3.py  
int型のn(1<=n<=10)を指定して下さい : 1  
1  
int型のn(1<=n<=10)を指定して下さい : 2  
2  
int型のn(1<=n<=10)を指定して下さい : 3  
6  
int型のn(1<=n<=10)を指定して下さい : 4  
24  
int型のn(1<=n<=10)を指定して下さい : 5  
120  
int型のn(1<=n<=10)を指定して下さい : 6  
720  
int型のn(1<=n<=10)を指定して下さい : 7  
5040  
int型のn(1<=n<=10)を指定して下さい : 8  
40320  
int型のn(1<=n<=10)を指定して下さい : 9  
362880  
int型のn(1<=n<=10)を指定して下さい : 10  
3628800
```

## 表

n	階乗
1	1
2	2
3	6
4	24
5	120
6	720
7	5040
8	40320
9	362880
10	3628800

## 問題 2.4

---

### ソースコード

```
def fibonacci_rec(n):  
    #nが0位上のint型と過程してnのフィボナッチ数を返す  
    if n<=1:  
        return 1  
    else:  
        return fibonacci_rec(n-1)+fibonacci_rec(n-2)  
  
for i in range(31):  
    key_input=input("int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : ")  
    print(fibonacci_rec(int(key_input)))
```

### 実行結果

```
>python 2_4.py
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 0
1
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 1
1
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 2
2
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 3
3
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 4
5
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 5
8
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 6
13
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 7
21
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 8
34
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 9
55
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 10
89
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 11
144
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 12
233
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 13
377
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 14
610
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 15
987
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 16
1597
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 17
2584
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 18
4181
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 19
6765
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 20
10946
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 21
17711
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 22
28657
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 23
46368
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 24
75025
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 25
121393
int型のn(0<=n<=30)を指定して下さい : 26
```

196418

int型の $n(0 \leq n \leq 30)$ を指定して下さい : 27

317811

int型の $n(0 \leq n \leq 30)$ を指定して下さい : 28

514229

int型の $n(0 \leq n \leq 30)$ を指定して下さい : 29

832040

int型の $n(0 \leq n \leq 30)$ を指定して下さい : 30

1346269

表

n	フィボナッチ数
0	1
1	1
2	2
3	3
4	5
5	8
6	13
7	21
8	34
9	55
10	89
11	144
12	233
13	377
14	610
15	987
16	1597
17	2684
18	4181
19	6765
20	10946
21	17711
22	28657
23	46368
24	75025
25	121393
26	196418



n	フィボナッチ数
27	317811
28	514299
29	832040
30	1346269

## 問題2.5

---

ソースコード

```
QUEEN = 9
EMPTY = 0

def print_grids(grid):
    #盤面の2次元配列gridを表示する

    for row in grid:
        print(row)

    print()

def is_free_anti_diagonal(grid,y,x):
    #盤面gridの座標(y,x)を基準として反対書く方向にクイーンが配置されていないならTrueを返す

    for i in range(8+1):

        if(y-i>=0 and x+i<8+1):
            if(grid[y-i][x+i]!=0):
                return False

        if(y+i<8+1 and x-i>=0):
            if(grid[y+i][x-i]!=0):
                return False

    return True

def is_free_diagonal(grid,y,x):
    #盤面gridの座標(x,y)を基準として対角方向にクイーンが配置されていないならTrueを返す

    for i in range(8+1):

        if(y-i>=0 and x-i>=0):
            if(grid[y-i][x-i]!=0):
                return False

        if(y+i<8+1 and x+i<8+1):
            if(grid[y+i][x+i]!=0):
                return False

    return True

def is_free_column(grid,x):
    #盤面gridのx座標を基準として列方向にクイーンが配置されていないならTrueを返す

    for j in range(8+1):
        if(grid[j][x]!=EMPTY):
            return False

    return True

def is_free(grid,y,x):
    #盤面gridの座標(x,y)にクイーンが配置できるならTrueを返す

    if(is_free_column(grid,x) and is_free_diagonal(grid,y,x) and is_free_anti_diagon
```

```
        return True
    else:
        return False

i=0

def find_eight_queen(grid, y):
    global i
    #盤面gridのy座標を基準として行方向にクイーンが配置できる場所を探す

    for x in range(8):
        if(is_free(grid, y, x)):
            grid[y][x] = QUEEN

            if(y == (8-1)):
                i = i + 1
                # print('{}枚目'.format(i))
                # print_grid(grid)
            else:
                find_eight_queen(grid, y+1)

            grid[y][x] = EMPTY
    return

def create_grid(n):
    #n*nサイズの初期盤面を返す

    grid = []

    for _ in range(n):
        column = []

        for _ in range(n):
            column.append(0)

        grid.append(column)
    return grid

if __name__ == '__main__':
    grid = create_grid(8+1)
    find_eight_queen(grid, 0)
    print('正答盤面の総数: {}'.format(i))
```

## 実行結果

```
>python 2_5.py
正答盤面の総数: 92
```

## 問題2.6

---

ソースコード

```
QUEEN = 9
EMPTY = 0

def print_grids(grid):
    #盤面の2次元配列gridを表示する

    for row in grid:
        print(row)

    print()

def is_free_anti_diagonal(grid,y,x):
    #盤面gridの座標(y,x)を基準として反対書く方向にクイーンが配置されていないならTrueを返す

    for i in range(8):

        if(y-i>=0 and x+i<8):
            if(grid[y-i][x+i]!=0):
                return False

        if(y+i<8 and x-i>=0):
            if(grid[y+1][x-i]!=0):
                return False

    return True

def is_free_diagonal(grid,y,x):
    #盤面gridの座標(x,y)を基準として対角方向にクイーンが配置されていないならTrueを返す

    for i in range(8):

        if(y-i>=0 and x-i>=0):
            if(grid[y-i][x-i]!=0):
                return False

        if(y+i<8 and x+i<8):
            if(grid[y+i][x+i]!=0):
                return False

    return True

def is_free_column(grid,x):
    #盤面gridのx座標を基準として列方向にクイーンが配置されていないならTrueを返す

    for j in range(8):
        if(grid[j][x]!=EMPTY):
            return False

    return True

def is_free(grid,y,x):
    #盤面gridの座標(x,y)にクイーンが配置できるならTrueを返す

    if(is_free_column(grid,x) and is_free_diagonal(grid,y,x) and is_free_anti_diagon
```

```
        return True
    else:
        return False

i=0

def find_eight_queen(grid, y):
    global i
    global key_input
    #盤面gridのy座標を基準として行方向にクイーンが配置できる場所を探す

    for x in range (key_input-1):
        if(is_free(grid, y, x)):
            grid[y][x]=QUEEN

            if(y==(key_input-2)):
                i=i+1
                #print('{}枚目'.format(i))
                #print_grid(grid)
            else:
                find_eight_queen(grid, y+1)

            grid[y][x]=EMPTY
    return

def create_grid(n):
    #n*nサイズの初期盤面を返す

    grid=[]

    for _ in range(n):
        column=[]

        for _ in range(n):
            column.append(0)

        grid.append(column)
    return grid

key_input=int(input('N(4<=N<=13):'))+1

if __name__ == '__main__':
    grid = create_grid(key_input)
    find_eight_queen(grid, 0)
    print('正答盤面の総数: {}'.format(i))
```

## 実行結果

```
>python 2_6.py  
N(4<=N<=13):4  
正答盤面の総数 : 2
```

```
>python 2_6.py  
N(4<=N<=13):5  
正答盤面の総数 : 10
```

```
>python 2_6.py  
N(4<=N<=13):6  
正答盤面の総数 : 4
```

```
>python 2_6.py  
N(4<=N<=13):7  
正答盤面の総数 : 40
```

```
>python 2_6.py  
N(4<=N<=13):8  
正答盤面の総数 : 92
```

```
>python 2_6.py  
N(4<=N<=13):9  
正答盤面の総数 : 352
```

```
>python 2_6.py  
N(4<=N<=13):10  
正答盤面の総数 : 724
```

```
>python 2_6.py  
N(4<=N<=13):11  
正答盤面の総数 : 2680
```

```
>python 2_6.py  
N(4<=N<=13):12  
正答盤面の総数 : 14200
```

```
>python 2_6.py  
N(4<=N<=13):12  
正答盤面の総数 : 14200
```

```
>python 2_6.py  
N(4<=N<=13):13  
正答盤面の総数 : 73712
```

表

N	正答盤面の総数
4	2
5	10
6	4
7	40
8	92
9	352
10	724
11	2680
12	14200
13	73712

## レポート課題 2.1

---

females(5)で計算すると  
 $\text{females}(5) = \text{females}(4) + \text{females}(3)$   
となる

$\text{females}(4) = \text{females}(3) + \text{females}(2)$   
であり、  
 $\text{females}(3) = \text{females}(2) + \text{females}(1)$   
であり、  
 $\text{female}(2) = \text{females}(1) + \text{females}(0)$   
であり、  
 $\text{females}(1) = \text{females}(0) = 1$   
と言える。

また、  
 $\text{females}(3) = \text{females}(2) + \text{females}(1)$   
であり、  
 $\text{female}(2) = \text{females}(1) + \text{females}(0)$   
であり、  
 $\text{females}(1) = \text{females}(0) = 1$   
と言える。

female(2)は5回計算されている。

## レポート課題 2.2



フィボナッチ数列の各数を一辺とする正方形を利用した対数らせんや黄金比を見かけるように、自然界にも同様の原理を応用した様子がみられる。  
有名なものでいうとひまわりの種の配置はフィボナッチ数を利用して次の種の位置を137.5度と決まっている。  
またオウムガイも有名で體が大きくなってもバランスが崩れないように同様の設計がされている。

---

## レポート課題 2.3

---

フローチャート

---

## レポート課題 2.4

---

### メリット

コードがシンプルになることがあるのでリーダブルなコードになる可能性がある。  
ネストが深くなりにくいためリーダブルなコードが書きやすい

### デメリット

メモリの使用量が多いのでオーバーフローする可能性がある。